

# 令和8年度 発寒東小学校 研究全体会

2026. 4. 17  
開始時刻: 14:35~

場所: 職員室  
司会: 松本先生  
記録: 村井先生



## 全体会の内容

1. 本校の児童の実態
2. 昨年度の研究の成果と課題
3. 今年度の研究について(研究主題、視点)
4. 今年度の研究について(具体的な内容)
5. 諸連絡(「学び」のススメ&方向、指導案)
6. 教頭先生より
7. 校長先生より

---

# 1. 本校の児童の実態

～学力テスト、児童アンケートの結果から～

# 学力テストの結果

得意～国語：話すこと聞くこと

算数：測定、データの活用

苦手～国語：書くこと

算数：変化と関係

熟慮を要する問題より、情報を基にすぐに正解を見つける問題が得意という傾向が表れている。

R7年度は二極化が表れている学年があった。文章を書くこと自体も苦手とは思われるが、「書くこと」の問題文を読み解くことが苦手と思われる。

# アンケート

6	自分が思っていることや感じていることを人に伝えている。	108	100	53	21	282	38.3%	35.5%	18.8%	7.4%
7	自分の意見を進んで発言しようとしている。	91	103	66	22	282	32.3%	36.5%	23.4%	7.8%
8	意見の違う人とも、よく話し合おうとしている。	138	93	33	19	282	48.9%	33.0%	11.7%	6.4%
9	分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている。	169	73	19	11	282	59.9%	25.9%	10.3%	3.9%
10	学習で困っている友達に声をかけたり一緒に考えたりするようにしている。	91	35	16	?	282	49.6%	32.3%	12.4%	5.7%

## 課題

しかし、自分から協働的な学びに向かう力は弱い

## 成果

協働的な学びのよさを実感  
⇒コーディネートしてきた  
成果！！

# アンケート

11	新しく学んだことを、他の学習や生活の場面で使おうとしている。	126	100	38	18	282	44.7%	35.5%	13.5%	6.4%
12	意見を書くときには、その理由をはっきりさせて書くようにしている。	118	99	51	14	282	41.8%	35.1%	18.1%	5.0%
13	意見を発言する前に、自分の考えがうまく伝わるように、話の内容や順序を考えている。	114	96	59	13	282	40.4%	34.0%	20.9%	4.6%
14	人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがある。	128	110	33	11	282	45.4%	39.0%	11.7%	3.9%
15	振り返りを通して、自分の伸びや成長を感じることがある。	142	84	39	17	282	50.4%	29.8%	13.8%	6.0%
16	振り返ったことを、次に生かそうとしている。	135	95	43	9	282	47.9%	33.7%	15.2%	3.2%
17	自分の目標をもって生活している。	146	83	37	16	282	51.8%	29.4%	13.1%	5.7%
18	1日の時間の使い方を自分で考えて生活している。	112	90	50	25	282	39.7%	33.7%	17.7%	8.9%
19	自分で計画を立てて勉強している。	100	94	66	22	282	35.5%	33.3%	23.4%	7.8%

成果：振り返る

課題：実際の調整は...

# アンケート

20	疑問や課題を解決するために、自分で方法を考えるようにしている。	111	109	49	13	282	39.4%	38.7%	17.4%	4.6%
21	分からないことはそのままにせず、分かるまで努力するようにしている。	124	103	43	12	282	44.0%	36.5%	15.2%	4.3%
22	自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。	133	106	5	6	282	47.2%	37.6%	13.1%	2.1%
23	難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	125	106	36	14	282	44.3%	37.9%	12.8%	5.0%

## 課題

自分で方法を考える力は弱い

## 成果

最後までやりきる気持ち  
⇒意欲をかきたてる授業、  
ユーマアな授業の積み重ね



---

## 2. 昨年度の研究の 成果と課題

# 学校全体を通しての成果

◎「～たい」を引き出す目的意識の定着

◎「自己選択」による主体的な学びの実感

◎ICT(タブレット・スクールタクト等)による「他者参照」の日常化

○単元のゴール(発表会、お店屋さん、新聞作り等)を明確に設定したことで、子どもたちのモチベーションが高まり、特に低学年では学習への深い没頭や想定を超える発想が見られました。

○算数でのコース選択や、学習方法(一人か友達か)の選択肢を提示したことにより、子どもたちが「自分で勉強している」という実感を持ち、意欲的に取り組む姿が確認されました。

○ICTを活用して友達の考えを即時に見られる環境を整えたことで、「どうやって考えたかパソコンで見たい」と自己調整を伴う交流が生まれました。また、アドバイスや動画を手本にして自分の動きと比べるなどの活用も見られました。

# 学校全体を通しての課題

## △意欲の持続と「再着火」のアプローチ

## △「コーディネート」の具体化と「デジタル放任」の回避

## △「協働」の質と自走の姿をより具体的に

△導入で意欲は高まるものの、途中で「ガス欠」になったり、活動が遊び化したりする場面があり、学習と「～したい」を結び直す「再着火」の工夫が課題である。

そもそも着火していなかった、火の着き方、着く場所が違うということもないように配慮が必要である。

△「個別・協働・選択のコーディネート」が抽象的で、子ども主体の学びが「デジタル放任」にならないよう、教師の見極めと適切な伴走が求められている。

△協働が形だけに終わったり、考えを表現する経験が不足したりする課題があった。また発達段階に応じた自走の姿の設定していく必要がある。また、大前提として、本質を見失わないように、教科や単元のねらいにそって深い学びになるように授業実践をしていく。

---

# 3. 今年度の研究 について (研究主題、視点)

3年計画の2年目

研究主題

・自走する子の育成

# ○自走する子とは…？

(発寒東 学校経営の方針と重点 参照)

「**学びのコントローラー**」を自分自身で握っている子どものことと捉える。

教員が背中を押し続けなければ止まってしまう状態ではなく、自ら目的や目標を見だし、必要な手段を選択し、困難にぶつかっても軌道修正しながら進み続けられる子どもを育成していく。

# 「自走」は「調整」すること。学力向上のための最小サイクル

## 1 前回の振り返りから「つまずき」に気付く

「なんだかうまくいかないな」という自分の学びの状態を容観視する。



## 2 「原因」を考える

なぜ間違えたのか、どこが分からなかったのかを自分なりに分析する。



## 4 次に活かす「振り返り」

選んだ手立てでどうなったかを確かめ、次の学習方法を考える。



## 3 「手立て」を選ぶ

どうすれば解法できるか考え、友達に聞く、先生に聞く、もう一度やってみる等を選択する。



具体例：わり算の筆算が苦手な子の場合

### ① つまずきに気付く



「わり算の筆算で、いつも同じような間違いをしてしまう…」

### ② 原因を考える



「もしかして、かけ算九九の答えを間違えて覚えているのが原因かも？」

### ③ 手立てを選ぶ



「もう一度、苦手な僕の九九を復習してみよう。友達にクイズを出してもらおう。」

### ④ 振り返る



「九九を正しく覚えたら、わり算の間違いが戻った! この調子で頑張ろう。」

# 「Humor」な授業を目指して



## 視点 1

- ◎ 「～たい」の火をともし、持続させるアプローチ＝“More”  
子どもがゴールをイメージし、どうやって向かっていくか、意欲付けの面で子どもが自走するための教師の手だてを探っていく。

## 視点 2

- ◎ 個別×協働のコーディネート  
個別の学び（選択・ふり返し・調整）と協働の学び＝‘You’とを行き来できるよう、教師の意図的な関わりを含めて、ICTや教材、学習形態等を総合的にコーディネートしていく。

※調整とは、  
振り返りによって得た気づきにもとづき、学習の進め方や手立てを変えること。



# 多様な「～たい」を価値づける



**やってみたい**

未知への挑戦、  
行動への意欲



**聞きたい**

他者への関心、  
知的好奇心



**伝えたい**

表現の欲求、繋  
がる喜び



**解決したい**

問いへの探究、  
納得解への追求

---

単元を通じた「～たい」の持続

# 導入の「一発」で終わらせない

多くの先生方が、単元の導入で「～たい」をイメージされます。しかし、真に価値があるのは、導入だけでなく、単元を通して数多くの場面で「～たい」が生まれ続ける状態です。

**今年度の挑戦：**

**「～たい」の「質」を向上させる**

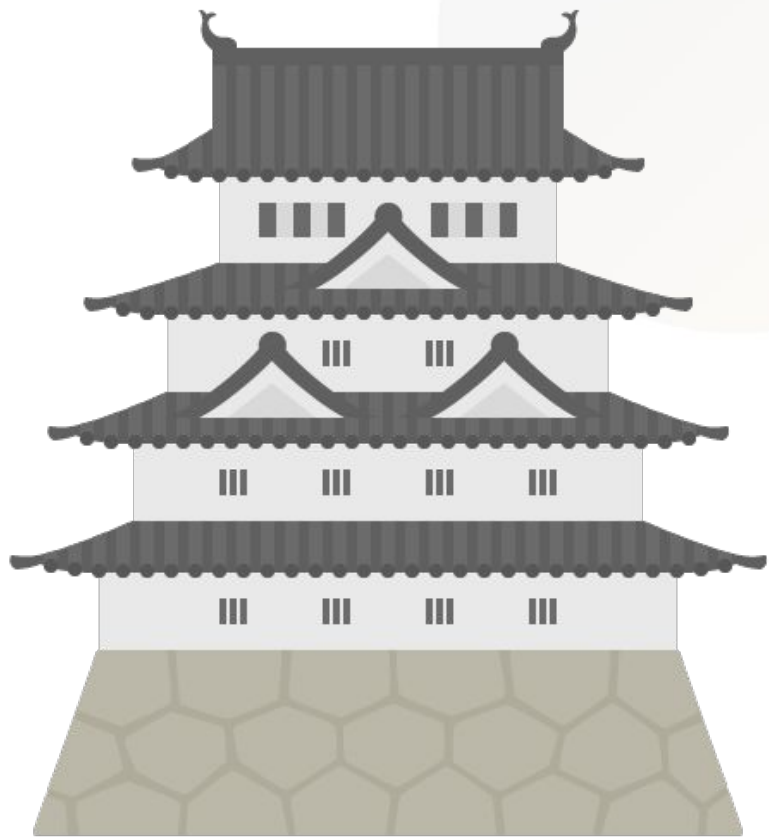


# 【実践例】 6年 社会科

## 「江戸幕府と政治の安定」

「なぜ江戸幕府は265年も続いたのか？」  
という問いからスタート。単なる「調べたい」を、子どもの予想に基づいた単元構築へと昇華させます。

武力、ルール、それとも仕組みか。子どもたちの仮説に沿って学ぶことで、毎時間が「確かめたい」という質の高い活動に変わります。



# 子どもたちの予想を単元の軸にする

- ✓ 予想：武力で抑えたのでは？ → 鉄砲の制限や軍役の工夫を取り上げる。
- ✓ 予想：ルールを厳しくしたのは？ → 武家諸法度や禁中並公家諸法度を学ぶ。
- ✓ 予想：大名を監視したのでは？ → 参勤交代や親藩・譜代・外様の配置を分析する。
- ✓ 教師の役割：子どもの予想と学習内容を「つなぐ」ことで、主体性が持続する。

# 質の向上を支える「3つの仕掛け」



## 振り返りの工夫

次の「～たい」が生まれる問いかけになっているか？



## 選択の余地

学び方や資料を子ども自身が選べる場面はあるか？



## 調整の機会

自分の進捗に合わせて計画を修正できているか？

## 今年度のゴール

# Qual.

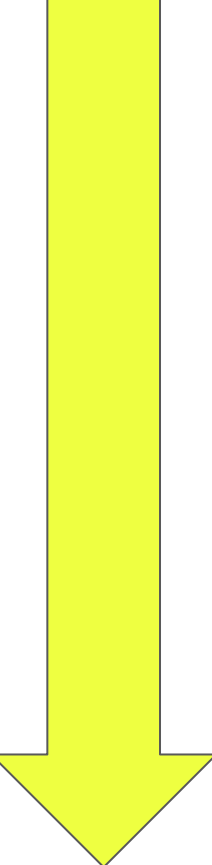
「～たい」の質を最大化する

私たちは1年間、この「～たい」を中心に据えて取り組んでいきます。形だけの活動を超え、子どもたちが自走する授業を、共に創り上げていきましょう。

---

# 4. 今年度の研究 について (具体的な内容)

R8年度



R7年度	<p><del>自走のイメージを共有する1年</del> 子どもにとっては主台作り <del>どの場面で自走の姿が見えたか、どのような仕掛けをしたのか等を共有し、日常の 実践に生かしていく。</del> <del>視点が研究の主題に向かうものになっているか、実践を通して確かめていく。</del></p>
R8年度	<p>自走を促す1年 別件で生成AIの実践発表会を9月に実施(講師 札幌国際大学 安井先生)</p> <p><b>全校研→低中高(協力者、助言者、指導主事なし)</b></p>
R9年度	<p>自走を確立する1年 <u>春の札教研を研究会代わりとする</u></p> <p><b>①春の札教研→低中高から1人ずつ授業公開、分科会も3会場</b></p> <p><b>事後研として、②全校研、③部内研を行う 全員(※専科教員も含む)が①～③のいずれかの授業を行う。</b></p>

## 具体的な内容

### ①研究教科について

○教科は自由

**ただし、実施される単元や学習内容が、必ず「視点1・視点2」に合致していること。**

**教科や単元のねらいに沿って授業を構築することも重要である。**

## 具体的な内容

### ②全校研について

○(低・中・高の3本)と部内研で実践を行う。

○公開する本時について、**学年で同じ単元は可。ねらい次第では同じ本時での実施も可とする。**

(その方が自走というイメージを学年で共有できるのなら)

## 具体的な内容

### ③部会について

○すずらん 田中T～低学年 石黒T～高学年

担任外 尾形T～低学年 小瀧T～中学年

森田T～高学年 大滝T～全体的に

※相談可です。

---

# 5. 諸連絡

～「学び」の方向 & ススメ、指導案～

## ○「学び」のススメ、方向

⇒来週の参観懇談の際に配付いたします。

「学び」のススメ⇒子ども用、「学び」の方向⇒保護者用

---

## ○指導案

⇒今後の研修日に予定されています「指導案書き方研修」

にて説明させていただきます。

## 6. 教頭先生から

---

## 7. 校長先生から